



徳嶺勝信

6月のベトナム南部ホーチミンは雨期に入る。日本の梅雨とは違い、主に午後から2〜3時間程激しいスコールがある。日中の日差しは強いがスコールの後は比較的涼しく過ごしやすい。車やバイクの排ガスも洗い流してくれるので、乾期より雨期が好きだ。雨期の期間は5〜11月。スコール対策さえすれば、訪れるにはお勧めの時期だ。

先月23〜25日の3日間、米国のオバマ大統領が首都のハノイとホーチミンを訪れた。ハノイではローカル食のフォー（米粉麺）の店に立ち寄り、ホーチミンでも比較的口ローカルなお寺などに立ち寄るなど精力的に動き回っていた。

米大統領が訪れるのはクリントン氏に続き2回目。厳戒態勢が取られる中、オバマ大統領見たさに多くのベトナム人が行く先々に集まり大渋滞を引き起こしていた。好奇心旺盛なベトナム人らしい光景だ。今回のオバマ大統領の来越には大きな意味があると言われる。表敬訪問だけでなく、米国と

進出に目を向ける好機

ベトナム

ベトナムの企業との間で風力発電などのエネルギーに関する協力協定が結ばれた。本格的な米国企業の東南アジア諸国連合（ASEAN）を見据えたベトナム進出が始まったように思う。これからこの動きは加速していくだろう。

現在のベトナムは米国だけではなくヨーロッパや近隣のアジア、ASEAN周辺からの進出が相次いでいる。日本もその中の一つ。弊社もほとんど毎週と言ってよいほど日本企業のアテンドがある。さまざまな業種がベトナムでの事業展開や進出などで相談に訪れる。大半はベトナム人向けの内需を考えている企業が多い。

先般、県が主催する沖縄国際物流ハブ推進事業のイベントに招かれ、現在のベトナムについて話をさせてもらった。海外展開を考えている企業が集まっている中で、実際にベトナムに行ったことがある人が少数だった事に少し驚きと温度差を感じてしまった。

あおる訳ではないが日本の中で沖縄は最もベトナムに近く、空便を活用しての物流体制も構築されている。食も文化も共通しているところが多い。ビジネスをする上では共通点が多ければ多いほどチャンスは多い。目を向ける良い時期だと思う。

（ベトナムJES代表）

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。